

(様式1)

自己評価表(最終)

新居浜西高等学校(定時制)
学校番号(5)

グラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)
○支え合う心や多様な価値観を認め合う心を育むとともに、他者と望ましい関係を築き、協働できる生徒を育成します。 ○分かる授業の実践により、確かな基礎学力を身に付けた生徒を育成します。 ○やる気(プラス思考)を持って物事に取り組む態度や、体力の向上に努める態度を養い、健全な勤労観を持った生徒を育成します。 ○カウンセリングマインドを持って生徒一人一人を見つめた支援・指導を行い、自己肯定感を育み、自立して生きる力を身に付けた生徒を育成します。	○単位制の夜間定時制高校(普通科)です。 ○前期・後期の二期制のカリキュラムで、学期ごとに単位を認定します。 ○1日の授業は4時間で、就労者にも配慮した時間帯で授業を行います。 ○成績及び単位認定は、授業での取組やレポート、定期考査等を三観点で総合的に判断します。 ○本校の授業に加え、定通併修、学校間連携、高等学校卒業程度認定試験などで学ぶことにより、3年間で卒業することも可能です。 ○学校独自の行事やキャリア教育、人権・同和教育、総合的な探究の時間の充実により、教科等横断型学習や地域理解を深め、コミュニケーション能力や社会性を身に付けることのできる様々な体験をすることができます。 ○少人数であり、教育相談や個人面談等の充実により、静かで落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送ることができ、学び直しにも最適な環境です。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方針
シ ョ ラ シ ン ・ ユ ー ・ ホ リ ー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上を目指す。〔A:80%以上、B:79～70%、C:69～60%、D:59～50%、E:50%未満〕	B	教職員アンケートにおいて「十分に成長している」及び「成長している」と回答した割合は70%であった。	全ての教職員がスクール・ポリシーに関する認識を共有し、連携して質の高い教育に取り組む。
学 習 指 導	基礎学力の定着を目指した分かる授業の実践	生徒一人一人の実態に応じた指導を行い、生徒学校評価において「分かる授業率90%以上を目指す。〔A:95%以上、B:94～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:69%未満〕	B	生徒学校評価(分かる授業率)が92.5%であり、保護者や授業見学者からは、雰囲気がいと好評であった。	多様な生徒に対して分かる授業となるために、一人一台端末を積極的に活用するなど、授業改善を推進する。
	単位制高校の特質を生かした三修制の推進	定通併修・学校間連携単位修得及び高卒認定試験合格률75%以上を目指す。〔A:85%以上、B:84～75%、C:74～65%、D:64～55%、E:54%未満〕	A	定通併修合格率は100%(一人)であったが、高卒認定試験は受験者なし、学校間連携も受講者なしであった。	一年次生の時から、興味を高めさせるような声掛けをし、しっかりと心構えをもって受講させ、修得・合格できる学力を身に付けさせる。
生 徒 指 導	基本的生活習慣の確立	出席率90%以上を目指し、一人あたり年間遅刻回数5回以下に抑え、基本的な生活を送ることができるよう指導する。〔A:95%以上、B:94～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:69%未満〕	B	出席率は92.7%であり、一人当たりの遅刻回数は5.3回であった。多くの教員がかかわる面談指導の体制が効果を上げた。	保護者との連携をさらに深め、一人一人の生徒に基本的生活習慣が身に付くよう適切な指導を継続する。
	個別面談の充実	年間5回以上の個別面談を実施し、生徒の実態を把握し、それに応じた指導を行う。〔A:6回以上、B:5回、C:4～3回、D:2回、E:1回〕	B	定期的な個別面談以外にも学校生活アンケートの回答内容などを踏まえながら適宜面談を行い、生徒へきめ細かな支援を行うことができた。	生徒の心に寄り添う指導を行い、教員間で適宜情報交換を行える体制を整える。
	コミュニケーション能力の育成	学校行事への出席率90%以上を目指すなど、学校行事への積極的参加を促し、集団行動への適応能力を向上させる。〔A:95%以上、B:94～90%、C:89～80%、D:79～70%、E:69%未満〕	B	学校行事への出席率は92.1%であり、定通総体の参加率も95.3%であった。本年度生徒発表で文化祭を開催し、生徒は準備・運営を通じて多くの経験を得た。	今後も生徒会を中心に、生徒主体の魅力ある行事を企画・運営していくよう支援していく。
進 路 指 導	進路指導の充実	進学・就職希望生徒の面接指導を定期的に行い、生徒の自己理解を深めさせる。〔A:6回以上、B:5回、C:4～3回、D:2回、E:1回〕	B	ホームルーム担任との面談のほか、希望生徒には進路担当教諭による面談も行い、進路選択に関する情報の提供に努めた。	一年次から、進路やキャリアに関する体系的な指導をシステムとして構築し、生徒や保護者に浸透させていく。
		卒業生の希望進路実現100%を目指す。〔A:100%、B:99～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:59%未満〕	D	卒業生の希望進路実現について63.6%であった(1月末現在)。一人一人希望する進路実現に向けて丁寧に指導を行った。	オープンキャンパスや企業見学について積極的に声掛けを行うとともに、ハローワークとの連携を強化する。
人 権 教 育	豊かな人間性の育成	自己肯定感を高め、自他の人権を尊重することができる生徒を育成する。また、人権・同和教育ホームルーム活動のほか、教育活動全体を通じて、差別や偏見、いじめを許さない心の育成を図る。指導の充実度の評価において、「大変よくできている」「よくできている」を合わせて80%以上を目指す。〔A:90%以上、B:89～80%、C:79～70%、D:69～60%、E:59%未満〕	A	生徒アンケートでは、「大変よくできている」「よくできている」を合わせた評価が92.5%であった。人権・同和教育ホームルーム活動以外にも、「人権だより」に生徒のコメントを記載するなど、人権尊重の意識を高める工夫を行ったが、対人関係のトラブルが散見された。	教員自らが、差別をなくす主体者としての姿を生徒に見せるとともに、教育活動全体を通じて差別や偏見、いじめを許さないという潜在的カリキュラムを醸成し、人権尊重の実践力を高める。
業 務 改 善	適切な勤務時間	教職員が勤務時間を守り、心身を休ませる休憩時間を確保する。	B	勤務時間は守られているが、休憩時間が十分に確保できない教員がいた。	休憩時間が確保できるよう配慮する。
	職場環境の整備	業務分担において担当者を複数配置し、業務の効率化を図るとともに、OJT研修を充実させるなどして、教職員の負担軽減を図る。	B	研修体制を整備できたが、業務における教員間の連携に課題が残った。	実務の協働を通じて、スキルアップできていると実感できる環境を整える。

※ 評価は5段階(A:十分な成果があった B:かなりの成果があった C:一応の成果があった D:あまり成果がなかった E:成果がなかった)とする。